

//REPORT//

令和 6(2024)年度 第 1 回ユネスコスクールオンライン意見交換会 「日本ユネスコ協会連盟の事業と学校支援～ユネスコスクールサポーターズとして～」



ACCU 内ユネスコスクール事務局では、令和 2(2020)年度より、ユネスコスクールオンライン意見交換会を 2～3 カ月に 1 回のペースで実施しています。今年度第 1 回目は、「日本ユネスコ協会連盟の事業と学校支援～ユネスコスクールサポーターズとして～」と題し、24 名のご参加申込のもと開催しました。

■ プログラム

開催日時: 令和 6(2024)年 6 月 27 日(木) 16:00～17:00

時間	内容
16:00	オープニング 趣旨説明 ACCU教育協力部 部長 大安喜一
16:05	ご発表 日本ユネスコ協会連盟 柴田香里氏
16:30	ディスカッション 事例紹介を聞き感じたこと、各校の取組をお互いに共有します。
16:50	振り返り グループ毎に、ディスカッションで話したことを発表します(良かった点、学んだこと、今後活かしたいこと等)
17:00	クロージング

■ ご発表

以下、柴田氏によるご発表の概要です。

まずは簡単に私たちの歴史と理念についてお話します。

ユネスコ憲章前文に有名な一文があります。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」この「人」というのは原文だと、men、人の複数形となっています。つまりここから読み取れるのは、戦争が生まれるのは、誰かひとり、あるいは一部の組

織の中ではない、また平和のとりでを築けるのも、ひとりの人や一部の人・組織ではなく、皆で築いていかなければいけないということです。一人ひとりが平和の担い手、平和をつくる主人公であると同時に、逆に言えば一人ひとりが平和のとりでを築くために動かなければいけないということでもあります。

昨今のウクライナ侵略やガザの問題等でユネスコ憲章はますます価値のあるものとしてこれから浸透してほしいと思いますが、実はこの憲章、理念というものは、戦後間もない日本の中でも広く浸透し、一つの心のよりどころとして発展することになりました。

1947年にユネスコの理念に感銘を受けた市民たちがユネスコ活動を開始し、仙台をはじめ全国各地でユネスコ協会が発足しました。このような流れを受け、1948年に日本ユネスコ協会連盟が全国の連絡機関として結成されるに至ります。

その後、市民団体としてのユネスコ協会、また文部科学省や外務省といった行政が官民一体となってユネスコ活動を展開していく中で、日本は1951年にユネスコへの加盟が承認されました。これは国際連合への加盟より一足早く、日本の国際社会への復帰の第一歩となったのです。

このように歴史の中で官民一体のユネスコ活動というものが発展していったわけですが、それは現在も同様です。また日本だけではなく世界でも言えることですが、各国政府にはユネスコの窓口となるユネスコ国内委員会が設置され、市民の中にはユネスコの活動を実践するグループがあります。日本であれば文部科学省の中に窓口が設置され、市民グループの中にはユネスコ協会やユネスコスクールをはじめとした団体が多数あります。日本のユネスコスクールは1,000校以上と世界で最も多い加盟校数となっておりますが、世界にはユネスコスクールが12,000校ほどあります。同じように、私たちのような民間のユネスコ協会、ユネスコの団体というものも世界にもあります。これは、やはりそもそも平和を構築するのはひとりの人間、一部の組織ではなく、皆で築かなければいけないというところに則っているからだと思います。

ユネスコ活動は皆で盛り上げていかなければいけませんので、私たちは民間の立場から、行政とも協力をし、同じ民間の中で活動しているユネスコスクールに対して全国各地のユネスコ協会と一緒に活動の支援をしています。

私たちは、教育というものが明日の希望になると信じています。「きょういくで、あしたへいく」というスローガンのもと、教育によって人々の心の中に平和のとりでが築かれ、また貧困の連鎖を断ち切る力が生まれ、文化や自然を尊ぶ心を育てることによって、明日を生きる希望と力を生んでいける、育ていけるというふうに考えており、この理念に基づいて様々な事業を展開しています。その中で本日紹介するのが、学校向けの事業です。本事業を紹介していくにあたり、ユネスコスクールに期待されていることや、求められている活動についてお話しします。

ユネスコスクールは、文部科学省および日本ユネスコ国内委員会においてESDの推進拠点とされていますが、ユネスコスクールの定義としては、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するために、平和や国際的な連携を実践する学校とされています。また、ユネスコスクールの活動目的には、ユネスコスクール・ネットワークの活用によって世界中の学校と生徒間、教師間の交流を通じ情報や体験を分かち合う、というのがあり、これはまさに「平和や国際的な連携を実践する学校」と合致するわけです。また、若者が地球規模の諸問題に対処できるような新しい教育内容や手法の開発、

発展を目指すという活動目的は、「ESD の推進拠点」と合致するかと思います。

このような定義・目的において、具体的にどのような活動を行うことが求められているかと言えば、例えば国連が定める国際デーを記念する行事を年 2 回以上実施することや、ユネスコあるいはナショナルコーディネーターが実施する行事等に積極的に参加すること、また近年特に重視されていることとして、各学校での活動を国内外に向けて積極的に発信するということが挙げられます。ですが、これらの活動を行っていくというのはなかなか難しいところもあるかと思います。そのため私たちとしては、このような活動を各ユネスコスクールが行いやすくするためにサポートができればというところから学校向け事業を展開しています。

私たちが行っている学校向け事業は大きく分けるとユネスコスクール/キャンディデート校のみを対象とした事業と、ユネスコスクールに適した事業の 2 つになります。前者では「ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクト」と「高校生カンボジアスタディツアー」が主な事業となっており、後者には、例えば国際デーと絡めた学習に最適な「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」や、地域と協働で減災・防災教育を行っていく「アクサ・ユネスコ協会減災教育プログラム」などがあります。本日は、ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクトと寺子屋リーフレット制作プロジェクトを中心に紹介しながら、各学校が行っている実践例なども紹介します。

・「ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクト」について

こちらはユネスコスクール/キャンディデート校のみを対象とした事業ですが、内容としては、SDGs 達成に向けた ESD を実践するユネスコスクールやキャンディデート校にし、活動費用の助成を行うものです。助成額は、1 年間の活動に対しては上限 10 万円、2 年間継続して行われる活動に対しては上限 30 万円です。助成校数は毎年 80 校程度ですが、校種は特に問いません。幼稚園から高校、特別支援学校、その他フリースクール等も対象となっています。

また、12 月には例年活動発表会をオンライン上で行っており、これはユネスコスクール同士の交流のサポートにもなっています。このプロジェクトの特徴は、校種、地域の特色を生かした活動をサポートしているという点です。

他団体にも、学校向けの助成事業というのはいくつかありますが、特定の地域や分野における活動に対する助成が多い中、本プロジェクトは特に「この分野の活動をしなければいけない」というわけではありませんので、例えば海洋教育が盛んなところであれば海洋教育に、平和学習が盛んな学校であれば平和学習に関する様々な活動に対して助成する、ということが特徴です。

一方、外国との交流に助成金の一部を充てるという学校も近年増えています。例えば、キリバスの小学校とオンライン交流をしている学校に対し、通訳の方の謝金や、オンライン機器などにも助成金を充てただけです。ただ、海外の学校とのマッチングなどの支援は行っておりません。マッチング支援はユネスコスクール事務局が行っていますので、興味があればお問い合わせいただければと思います。

活動発表会については、小学校の発表ですと、例えば模造紙に綺麗にまとめたものをその場で見せて発表する学校が多くあります。高校生ですと、その場で実験をしてみせるなど、様々な形で活動

の発表を行っています。先生方が参加することもできますので、もし他校の活動内容が知りたい、興味ある場合はぜひご参加ください。

・「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」について

先ほど国際デーに適しているということで紹介しましたが、本プロジェクトは私たちが行っているユネスコ世界寺子屋運動を学習の題材としています。

今日でも貧困や紛争によって学校に行くことができない子どもたちはたくさんいます。ウクライナ侵略やガザの紛争によってそのような子どもたちが増えてしまうのではないかなと懸念しているところですが、それだけでなく、子どもの頃学校に行けないうち大人になってしまったという人もたくさんいます。そのような方たちの学びの場として寺子屋を提供するというのがこのユネスコ世界寺子屋運動です。

本プロジェクトでは、この寺子屋運動を題材としながら、まずは学校に行くことができない子どもがいること、できなかった大人たちがいることを知り、そしてこのような現状をどうすれば解決できるのか、あるいはこういった現状があることをどうすればより多くの人に知ってもらえるかということを考えることから始めます。そして、リーフレットに自分の思いや問題・テーマなどを表現し、まとめ、さらに、このリーフレットを使いながら発信活動を行ったり、自分の身近なところから何ができるだろうと行動を起こしたりするというを行います。

現在、カンボジアには多数の寺子屋がありますが、書きそんじハガキ 17 枚で 1 人が 1 ヶ月間寺子屋で学習をすることができます。作成されるリーフレットには書きそんじハガキ回収を呼びかける文言などが多く入っており、実際に子どもたちは書きそんじハガキや未使用の切手の回収などを行っています。

もう少し国際デーと絡めた学習に焦点を当ててお話をします。本プロジェクトは 5 月中旬に募集を開始し、現在も募集中です(8 月 20 日を締め切りとしていますのでもし関心がある方がいらっしゃいましたらぜひご参加ください)。8 月末から 9 月初めにかけては、教員対象のキックオフ会の開催を予定しています。今年度から現地での高校生カンボジアスタディツアーが再開され、7 月末から 8 月初旬に 10 名の高校生が実際にカンボジアで寺子屋なども見てきますので、キックオフ会では高校生が実際に見て感じたことなどの報告をしてもらうことを考えています。その後、9 月上旬から各学校で実際に学習が開始されるかと思えます。ちょうど 9 月 8 日はこのプロジェクトに最も適している「国際識字デー」です。秋にはその他にも「貧困撲滅のための国際デー」や「世界こどもの日」がありますのでぜひ国際デーに絡めた学習をしていただければと思います。

このように学習を進めていく中でリーフレットの作成を行っていただき、年明けの 1 月上旬に各学校から代表作品 2 点を提出していただきます。ちょうど年賀状の時期は書きそんじハガキが出てきたり、あるいは年末の大掃除の中で未使用の切手が出てきたりすることが多いため、年末年始に書きそんじハガキの回収キャンペーンが開始されます。年明け 1 月～2 月にも「教育の国際デー」や「国際母語デー」といった国際デーがありますので、書きそんじハガキの回収とこのような国際デーを絡めることもできます。

3 月の中旬には、代表作品として提出いただいたリーフレットのコンテストを開いており、そのコンテ

ストの結果発表や表彰式をオンライン上で行います。オンライン表彰式では作者の生徒から一言コメントをいただいたりしており、ここでも学校間交流が行われています。

・「高校生カンボジアスタディツアー」について

その他プログラムとしては、先ほども少しお話した高校生カンボジアスタディツアーがあります。昨年度まではコロナ禍の影響でオンラインにて行っていたのですが、今年度から現地で開催いたします。募集は締め切っていますが、来年度以降も続けていきたいと思っていますので、もしご興味がありましたらぜひ高校生にご紹介ください。

・「アクサ・ユネスコ協会減災教育プログラム」について

募集期間は終わってしまっていますが、毎年減災教育プログラムも行っています。こちらは減災教育を行っている学校に 10 万円の助成を行うと同時に、教員を対象として 9 月に宮城県の気仙沼市にて研修を行います。

宮城県、特に気仙沼市では、3.11 以前から熱心に減災教育を実施していたので、このプログラムでは、先進的な減災・防災教育が行われている小・中学校や震災遺構の見学等を行っています。

以上、ご紹介したプロジェクト以外にも学校対象や児童・生徒向けのプログラムがありますので、よろしければ我々 [日本ユネスコ協会連盟の公式ウェブサイト](#) 等で見ていただければと思います。

では最後に、実践例をいくつか紹介いたします。

まずは「ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクト」について、幼稚園の実践例を紹介します。幼稚園の子どもたちも本当に様々なことを実践しており、この幼稚園では、環境、食育、国際理解、人権と多岐に渡る分野の活動を行っています。

活動内容を説明しますと、こちらの幼稚園では国際環境デーを取り上げ、食育と環境、特に生ゴミや食料廃棄物のことを考え、生ゴミを使ったコンポストを作ろうというところから始まりました。このコンポストから肥料を作り、野菜を育て、販売し、売上金が出たらそれをどうしようかと子どもたちが考えていく過程で、がんなどで苦しんでいる人たちがいることを知り、助けたいということで、売上金を寄付しました。このような活動を通して、例えば食料廃棄物を考える中で世界には食べ物が食べられない子どもたちがいるということも学び、食育と国際理解教育が行われました。

これだけでも心温まる話ですが、特に素晴らしいのが、この活動が幼稚園の中でどんどん広がったことです。最初は 5 歳児の子どもたちがコンポスト作りなどを始めていたのですが、それを見ていた 4 歳児の子どもたちが興味を持ちました。すると 5 歳児の子どもたちが 4 歳児にコンポストとは何なのか、生ゴミとは何なのかを教えてあげました。次に 4 歳児がコンポストを作っていると、今度は 3 歳児が興味を持ちました。そうしたら 4 歳児が 5 歳児から教えてもらったことを 3 歳児に教えてあげるようになったのです。

続いて高校の事例です。この高校では、環境、防災・減災、国際理解の分野を中心に、2 年間継続して活動を行いました。高校ですので、自分の学校の近くにある自然を素材として学習をするだけ

ではなく、学習でわかったことを近隣の小・中学校に伝えるための出前授業を行ったり、あるいは地元
の公民館などを巻き込んで地域の方たちにも様々なワークショップを展開したりして学んだことを広め
ていきました。また 2 年にわたり、4 回模擬国連にも参加し、世界規模の様々な課題について他校と
協議を重ねることも行いました。このように、国内外の問題を幅広く扱いながら、広報活動や地域
の方を巻き込んだ活動を行っており、様々な賞も取っています。身近なところから世界にも視野を向け、
グローバルな価値観のもとに活動を展開している事例です。

幼稚園と高校の例を挙げましたが、当然小学校、中学校も様々な活動を行っています。[「ユネスコ
スクール SDGs アシストプロジェクト」ページ](#)にて紹介していますので、もし関心ある方いらっしゃいまし
たら見ていただければと思います。

これ以外の実践例として、全国各地にあるユネスコ協会と学校の繋がりについて少しお話しします。

まず一つ目は、大阪の箕面ユネスコ協会の例です。箕面ユネスコ協会は出前授業を積極的に行
っています。例えば、2018 年度に高校生カンボジアスタディツアーに参加した方が、そこで学んできたこと
や、それ以降ご自身で色々調べたことを小学生や高校生に伝えています。当然小学生です
と、世界の非識字問題や寺子屋運動、あるいはカンボジアの歴史を難しく感じることもありますので、
「カンボジアってどこにあるの?」とか、「かぼちゃとカンボジアってちょっと似てない?」というような問い
かけでうまく興味を引いたり、クイズを出したりしながら話をしています。また、ワークシートなども作って
その後の探究活動に繋がられるような工夫もしています。

高校生カンボジアスタディツアーの出前授業は全てのユネスコ協会が行っているわけではありませ
んが、今年度再開され 10 名の高校生が行ってきますので、出前授業などをご希望でしたら[お問い合わせ](#)
[ください](#)。

また、書きそんじハガキ・キャンペーンは、多くのユネスコ協会で行っています。ユネスコ協会の方
から学校に対して声掛けをすることが多いですが、回収ボックスを学校に持って行ったり、その機会に
世界寺子屋運動のことや非識字の問題などの出前授業を行ったりすることもあります。中には寺子屋
リーフレット制作プロジェクトで作ったリーフレットを商店街に貼ったりしながら地域ぐるみで書きそんじ
ハガキを集めるといった活動を行っている学校とユネスコ協会もあります。各学校が集めた書きそんじ
ハガキをユネスコ協会に贈呈する、贈呈式が行われたりもします。

このような活動を通して、小学生から高校生の児童・生徒たちが世界について考えたことを共有し
てくれるのですが、大変嬉しい気持ちになるとともにこのような活動をこれからも学校と私たちユネスコ
協会で行ければというふうにも考えます。

ユネスコ協会は地域ごとに様々な特色を持っていますので、例えば平和活動を学校と一緒にやっ
ているというユネスコ協会などもありますし、各地域、その町の宝物を絵画にしてコンテスト形式で発
表したり、地域の公民館に貼ったりといったことを行っている地域ユネスコ協会もあります。よろしけれ
ばウェブサイト[各地のユネスコ協会の一覧](#)も載っていますので、ぜひ探してみてください。ただし、地
域のユネスコ協会によってはホームページや問い合わせ先が記載されていないこともあります。その
際は私たちの方でお繋ぎいたしますので[お問い合わせください](#)。

■ 振り返り

以下、ディスカッションにて話し合われた主な内容です。当日はユネスコ協会関係者のご参加もあり、学校の実践例や困りごとなどもざっくばらんに話し合いました。

- それぞれの学校における実践を紹介し、国際デーでどんな活動を行ったら良いのかを話し合った。
- 様々な探究活動などを行っている組織がある中、高校生や若い人の参加がなかなか進まないのが課題である。これは、高校の先生方の負担が大きい、外との繋がりが少ない、教員が減っている等が要因として挙げられるが、教員の負担がかからないような形でできるシステム作りが必要だ。地域のユネスコ協会のサポートがあることも知った。
- 話題は多岐に及び、各校のユネスコスクールとしての実践例や困ったこと、募金活動、ユネスコ食文化創造都市について話し合った。
- 広島の高등학교の先生の話では、原爆の慰霊式の際に原爆についての様々な学習を、スライド等を用いて行っているそうだ。また、2年生の総合学習ではSDGsの研究など、一つのテーマに絞ってクラスで発表し、代表者が全体に発表している。平和と環境、ESDがバランスよく行われている。
- みなかみ町では、3つの学校が将来的に統合されるが、特色を持った取組をしたいということで、町がユネスコエコパークに認定されているため、環境問題を中心に地元の素材として谷川岳や自然、ホテルの里などを舞台にした取組を検討している。群馬県には、ユネスコ協会等地域の知識を持った団体がたくさんあるのでそのようなところと協力していきたい。



[オンライン意見交換会の様子]

※オンライン意見交換会に関し、お申込み方法などの詳細は、[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内「最新情報」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#)に掲載中です。ぜひご参加ください！